

令和元年度 第2回生駒市地域公共交通活性化協議会  
議事概要

日 時 令和元年9月25日(水) 午後3時～午後5時10分

場 所 市役所4階 大会議室

出席者

(委員) 喜多副会長、森岡副会長、米田委員(代理:木村様)、井上委員、葛城委員、池田委員(代理:岩藤様)、村田委員(代理:吉岡様)、伊藤委員(代理:松尾様)、西村委員(吉田様)、霜永委員(代理:今西様)、黒部委員、平岩委員、藤澤委員、松尾委員、矢田委員、山下委員

(事務局) 生駒市(杉浦総務部長、澤井総務部次長、清水防災安全課課長補佐、寺西係員、武元高齢施策課長、後藤地域包括ケア推進課長、有山都市計画課長)、岸野都市交通計画コンサルタント株式会社(岸野)、セントラルコンサルタント株式会社(岡本、橋本、田熊)

欠席者

(委員) 小紫会長、金口委員、金田委員、村上委員

傍聴者 1名

議 事

1 報告案件

(1)各路線におけるコミュニティバスの利用状況について

2 審議案件

(1)生駒市地域公共交通総合連携計画における今後の検討方針について

(2)アンケート調査の取りまとめと今後の方向性について

3 その他

(1)今後の会議予定

(2)その他

配布資料

[前回協議会の議事録]

[分科会の議事概要]

[資料1] 各路線におけるコミュニティバスの利用実績(～R1.8)

[資料2] 生駒市地域公共交通総合連携計画における今後の検討方針について

[資料3] アンケート調査の取りまとめ(地域の意見)と今後の方向性について

[参考資料1] 生駒市福祉健康部実施の過年度アンケートの調査結果の紹介(一部抜粋)

[参考資料2] 生駒市における公共交通ネットワーク(資料3に関連する参考資料)

[参考資料3] アンケート調査(地域の意見集約)

主な議事内容

1 報告案件

(1)各路線におけるコミュニティバスの利用状況について

○資料1に基づいて事務局から報告した。

○委員から、グラフに基準値や計画数値がないので利用状況を判断できない。との発言に対して、議長から、今後は計画数値を表示したい。との発言があった。

○委員から、単に乗車人数が減少しているだけでなく、人口減少の要素もあるので地域性も映しているのかと思う。との発言に対して、議長から、当初計画は公共交通族が月に何回乗車するかを想定して計画している。委員の発言は、基になる人口や高齢化率、免許返納率も見なければ評価できないのではないかだと思うので今後想定どおりかどうか、その原因を精査し今後の計画の参考にしたい。との発言があった。

○他の委員からその他特に意見はなかったことから議長が報告案件(1)について了承を求めた結果、全委員が了承した。

## 2 審議案件

### (1) 生駒市地域公共交通総合連携計画における今後の検討方針について

○資料2及び参考資料1に基づいて事務局から説明した。議長から、直近数回の協議会では連携計画で積み残したもので今後やるべきことを効率的に進めるためリストアップしてきたが、あまりゆっくりやっていると、決定したときにはタイムオーバーになってしまう。少し急いだ感じはあるが2頁にあるスケジュールで検討を進めてはどうか。また、連携計画の理念としては「活動機会の確保」であり、自らの力で活動拠点まで行くことが出来ない人に対して、移動サービスが提供できているかどうか検証していきたい。との発言があった。

○事務局から、参考資料1のアンケート調査は、介護保険の事業計画実施に向けた調査で3年に1回実施(時期未定)しているもので、市の独自項目も設定できることから、今回1問だけだが設定している。との発言があった。

○事務局から、設問の意図として、既にアンケート結果から外出する際の移動手段はわかるので、公共交通を必要としている人がどうなのか、公共交通族がどれくらいいるか、ということ調べたくて設問を設定した。ただし、公共交通族がきっちり分かるかは微妙である。との発言があった。

○事務局から、資料2に都市計画マスタープラン(以下「都市マス」という。)との整合性について記載されているが、今年度から来年度に改定作業を進めていくことになっている。都市マスでは交通についても重要と考えており、福祉とは別のまちづくりの観点で公共交通の移動に関して内容も含めてアンケート調査を検討中である。都市マスの中では地域の特性を把握し、地域の方がどういう手段でどこへ何を目的に行かれているのかも把握する必要があると考えており、その中でフォローできると考えている。との発言があった。

○議長から、都市マスのアンケートと福祉部局のアンケートとの名寄せは可能か。クロスで分析集計できるようになると参考となる情報になる。との発言に対して、事務局から、検討課題としたい。との発言があった。

○委員から、資料2の5頁に上位計画と関連計画の整合性が謳われているが、理解していないとできないので説明もしてほしいし、こちらでも理解したうえで発言したい。との発言に対して、議長から、都市マスは検討中で策定の過程で情報交換しながら整合がとれば良いのではないか。都市マスのスケジュールはどうか。との発言があった。

○事務局から、都市マスは大きく分けて全体構想と地域別構想に分かれる。今年度中にアンケートを含む基礎調査を実施し全体構想の骨子をまとめ、それを受けて次年度に地域

- 別構想の検討をするという大きな流れである。との発言があった。
- 議長から、都市マスの仮説や構想は固まっているのか。との発言に対して、事務局から、現在検討中である。との発言があった。
  - 議長から、なるべく早い時期に構想等教えて欲しい。都市計画ではこのように考えている。また、公共交通はこのように考えている、ということをお知らせするスケジュール感はどうか。との発言に対して、事務局から、都市マスでは庁内連携で内容を議論する場を持つような形で進めるので、その中で公共交通に関する話もできると思う。どの程度の内容でいつこのような会議の場でお示しするかは庁内連携の中で検討されると思う。との発言があった。
  - 議長から、(公共交通と)都市マス、福祉、介護は密接に関連している。公共交通では活動機会を確保していきたい。それについて都市計画や福祉ではこういう形でサポートできるということを整理していただくことは可能か。との発言に対して、事務局から、担当レベルでは意見交換し連携している。実際にどのように整理するか方法については課題としたい。との発言があった。
  - 議長から、公共交通側から要望を整理し出して、それに対してできることを検討していただければ。との発言に対して、事務局から、このような意見を出す機会もあるのでこちらから投げかけて考えていただくというやり方もあると思う。との発言があった。
  - 委員から、資料2の3頁2.2アスタリスクに記載されている活動拠点は最低限の必需品で、商業施設・病院・駅・バス停等の等ではなく公共施設の一言を入れてほしい。との発言があった。
  - 委員から、広く市民の(行動の)どこまでカバーするのは難しいが少なくとも公共施設には行きやすいことは必要ではないか。との発言に対して、議長から、これは例示ではあるが、重要なことであるので忘れないように今後考えて行きたい。との発言があった。
  - 委員から、比較的若い高齢者は個々市民活動のバリエーションが多すぎてまとまらないが、日常生活以外のプラスアルファの活動を満たすための移動手段が必要と思う。との発言に対し、議長から、どこまでを日常生活と見るか難しい。活動機会の確保において、すべてのことを保証することはできない。人として生きていくために必要最低限の健康で文化的で潤いのある生活には幅があるが、どこまで市としてカバーするか。との発言があった。
  - 委員から、そこの線引きが難しい。との発言に対して、議長から、大方の市民にわかってもらえるように次期計画では線引きをできるかどうかこれから検討したい。との発言があった。
  - 委員から、その辺のことを満たせるかどうかによって住みやすい街になる、あって当然のプラスアルファができるかどうかで変わってくる。との発言があった。
  - 議長から、線引きをどうやって行うかは、サービスを提供するためのコスト負担がでてくる。バスだけで言うと、市の負担上限は7割の線がある。地域も含めた財源で何ができるのか決めていき、それを整備する流れになるのかなと考える。市としても無尽蔵にお金は出せない。全ての地区で7割出せるかと言えば厳しい。負担総額もあるので大き

く広がれば難しいので、ここまでは出来るということを探らないといけないのではないかと。との発言があった。

- 委員から、資料2の5頁の目次がきれいすぎて、市民に分かりにくい。公共交通、例えばバス停へ行くまでに別の手段に頼らなければバス停にも行けない。鉄道、バスの利用者が減ってきている中で、路線の検討も出てくる可能性もあるが、市民に大変な事であることが伝わるような工夫をして資料を作ってもらいたい。との発言に対し、議長から、避けるべきシナリオという考えがあるが、このままいくと困ることになる、それを避けるためにはどうすべきか、困ったことが起こらないための仕組み、というようなことを整理すると形成計画に近い形になると思う。困った事態は避けたい、という事例を出して、それをどこまで解決できるようにするか、というのが一つの方法かなと思う。との発言があった。
- 委員から、通勤客がだんだん減ってきて、通勤客でなくて、バス利用者を減らさないために形成計画をつくる。人の流れを作らないとだんだん減っていく。それをどう防ぐか。着地の施策を含めて考えていかないと。との発言に対して、議長から、活動機会を確保するためには移動シームレスが出来ないとだめで、どこかで途切れるとそこで終わってしまう。どのように対応できるか。また、事例として関東の鉄道会社ではパーソナルモビリティの検討を始めている、駅にとにかく来てもらうということを会社で考えている。自治体としてもやるべきで、公共交通や移動だけでなく、公共施設や買い物施設をセットで考えることも念頭に検討を進めたい。との発言があった。
- 委員から、形成計画はやっていかなければならないが、どこまで実現出来るのか、どこまで網羅して課題解決できるのか、予算の問題もあるので難しいのではないかと。との発言に対して、議長から、予算には限りがあるので、優先順位をつけてやっていくやり方かと思う。との発言があった。
- 委員から、大きな計画も良いが、まずは歩きやすい、自転車が走りやすい道路の整備を行うことが大事ではないかと。との発言に対して、議長から、バランスをとって考えなければならない。との発言があった。
- 議長から、立地適正化計画はどうするのか、との発言に対して、事務局から、立地適正化計画の策定は見合わせるが、立地適正化計画の内容を踏まえた都市マスを策定する方向である。との発言があった。
- 他の委員からその他特に意見はなかったことから議長が審議案件(1)について承認を求めた結果、全委員が承認した。

## (2) アンケート調査の取りまとめと今後の方向性について

- 資料2及び参考資料2,3に基づいて事務局から説明した。議長から、資料3の9頁は事務局案であって記載されていることを全部やるということではなく、出来るものもあれば出来ないものもある。連携計画が終わるまでに何か出来ないか、出来ることがあればやっていきたい。との発言があった。
- 委員から、鹿ノ台地区でボランティア委員会を設置し、無料で送迎支援を行っているとの事だが、運営方法等わかれば教えて欲しい。との発言に対して、議長から、今の方法が一番かどうかはわからないが、基本としては協議会は困っている人を何とかしたいと

- いうことであって、一方で地域のタクシー等のセーフティネットがなくなるのも困る。何が良い方法か自治会と一緒にになって検討していきたい。住民の負担が軽減できるような上手なやり方を探して行きたい。との発言があった。
- 委員から、先ほどから高齢で移動ができない、また、バス停へ行くのもしんどい、との話があるが、タクシーをもっと利用してもらいたい。福祉の関係でタクシーの初乗り運賃の補助等を考えて頂ける余地もあると思う、との発言があった。
- 議長から、タクシー事業者としてこういう工夫が出来ると言うことがあれば紹介してほしい。との発言に対して、委員から、地元事業者とも相談し、相乗りの斡旋、運賃の分担をどうするか等いろいろあると思う。全国で事例もあるので意見が出てくれば検討させてもらう余地はある。との発言があった。
- 議長から、どこまで相乗りが認められているのか分からないが、その他いろいろな方法があると思う。ぜひアイデアを出してもらいたい。全国でも検討されているので、積極的にここで紹介して欲しい。との発言があった。
- 委員から、基本的にタクシー事業者自ら相乗りを募るのは禁止されているが、全タク連では予め運賃が確定した場合において相乗りを行うとの施策を揚げられていると思うので、地元事業者と調整が済むのであれば、今後検討はしていけると思う。との発言があった。
- 議長から、タクシー会社がなくなったら困る。その中で、住民の利便性を高めていけるか、いろいろな知恵を出せればと思う。との発言があった。
- 委員から、利用者が減ってくるので いろいろ対策はあると思うが、目の前に見えていないので、交通事業者の方々に出してもらって方法を探っていくのも一つの方法だと思う。との発言に対して、議長から、交通事業者として可能なこと、或いは自社だけでは出来ないがどこかと連携すれば出来るということ、リストアップしていただき事務局へ知らせてほしい。それぞれの事業者でも模索し、困っていることもあると思う。それを乗り越えるために地域として協力していくのも一つの方法と思う。との発言があった。
- 委員から、資料3の9頁の対策案について、記載しているだけではなく、この中から一つでも二つでも生駒らしさを出して実現させてほしい。短い残りの期間の中で連携してお互いプラスになる施策を積極的に取り組んで頂きたいと思う。との発言があった。
- 委員から、10頁の候補地区意外でも既存のバスルートの変更はどこでも出来る。例えば生駒台循環の南田原バス停経由の大回りルート。との発言があった。
- 委員から、運転者不足の改善見込みが立たない。天理市では市も乗務員不足に関与していくことを形成計画の中に盛り込んでいる。また、大和郡山市や五條市でも広報紙にバス運転手が足りないことを市民にアピールして頂いているので生駒市でも協力お願いしたい。との発言があった。
- 委員から、バス乗車人数は全国的に右肩下がりとなっている。使い勝手が悪いかも知れないが地域の路線バスに乗っていただきたい。との発言に対して、議長から、ここまで乗ってもらわないとバス路線が維持できないことをアピールするためバス車内で乗車数をお知らせしているところもある。との発言があった。
- 委員から、バス路線を守ろうということは事業者から言いづらいので、バス路線を維持

する運動をするにしても、このような場でもっと発言してもらったら大きく役に立つと思う。との発言があった。

○委員から、例えば市と商店街とがコラボして乗車ポイントが溜まれば割引のお買物券を交付するとか、いろいろあると思う。との発言があった。

○委員から、たたき台があれば議論しやすい。との発言に対して、議長から、事務局から事業者さんにメールを送ってもらい、いろいろな提案や連携できることを書いてもらってそれを整理して頂きたい。との発言があった。

○他の委員からその他特に意見はなかったことから議長が審議案件(2)について了承を求めた結果、全委員が了承した。

### 3 その他

#### (1) 今後の会議予定

○事務局から、第3回協議会を令和2年1月8日(水)午後3時、コミセン402・403会議室で開催すること。また、それまでに案件が調べば分科会の開催も検討したい。との説明を行った。

#### (2) その他

○委員から、資料2の2頁に今後のスケジュールがあるが、今のペースで行くと次ぎの路線はもうないということか。コミバスばかりで話が分散し、答えが出ない。計画ばかり立てて、住民には何も届いていない。との発言に対し、議長から、何か出来ることを少しでも出来ないかということで今議論している。との発言があった。

○委員から、資料1を見ると、萩の台線も西畑・有里線も(乗車数が少なく)今年度が終わって来年の夏ごろにはばたばたしているのでは。との発言があった。

○事務局からは特になし

以上